

令和3年度 第1回

県東地域サイクルツーリズム推進協議会

県南地域サイクルツーリズム推進協議会

合同会議

令和3年9月10日

〈 内 容 〉

- 1 モデルルート(案)について
県東地域
県南地域
- 2 今後の進め方(案)について

1 モデルルート(案)について

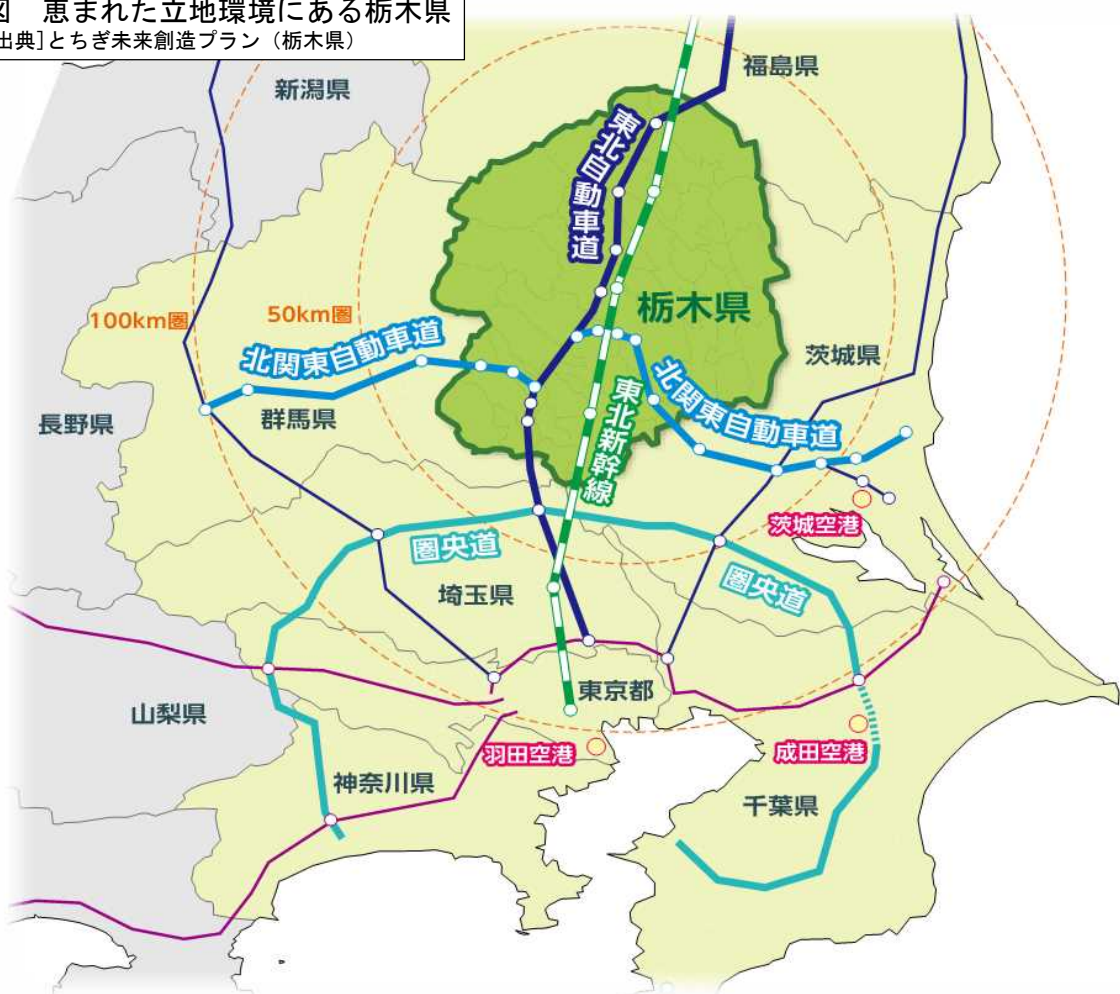
1-1 本県の地勢

本県は、首都東京から60～160kmの首都圏北部に位置する。

県内を南北に貫く東北自動車道や東北新幹線、東西に横断する北関東自動車道や水戸線・両毛線、また成田空港からは圏央道を経由してアクセスできるなど、首都圏や隣県からのアクセス性に優れている。

本県の地形は、北部から西部にかけては那須連山・日光連山、東部には八溝山地が並び、中央部から南部にかけては関東平野に開けているため、変化に富んだ魅力的なサイクリングルートづくりが可能である。

図 恵まれた立地環境にある栃木県
[出典]とちぎ未来創造プラン（栃木県）



1-2 本県の魅力

雄大な山々から清らかに流れる河川や緑豊かな里山、田園などが織りなす四季折々の風景を県内随所にみることができるなど、自然と身近にふれあえる環境がある。

また、長い歴史の中で育まれ、現代に守り伝えられてきた歴史的価値の高い世界遺産などがある。本県には、こうした国内外に誇る温泉・歴史・自然・食などの地域資源が豊富に存在する。

温泉



馬頭温泉郷
(那珂川町)

歴史



史跡 足利学校
(足利市)

自然



あしががフラワーパーク
(足利市)

食



いちご
(全域)

1-3 本県の現状

本県の観光客入込数等は順調に増加しているが、東京圏からの日帰り圏内に位置していることなどから、宿泊数の増加に結び付いていない傾向にある。

したがって、本県を訪れる観光客の滞在性・周遊性を高めることで、より多くの経済効果を地域に波及させる必要があり、また、日本人だけでなく外国人観光客を本県に呼び込むことが必要となる。

表 観光客入込数・宿泊数の推移 [単位：千人、%]
[出典]令和2（2020）年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果（栃木県）

区 分	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R2-R1 増減	R2/R1 比
入込数	90,525	90,923	92,768	95,436	92,282	61,168	▲31,114	66.3
宿泊数	8,277	8,120	8,360	8,269	8,257	5,069	▲3,188	61.4

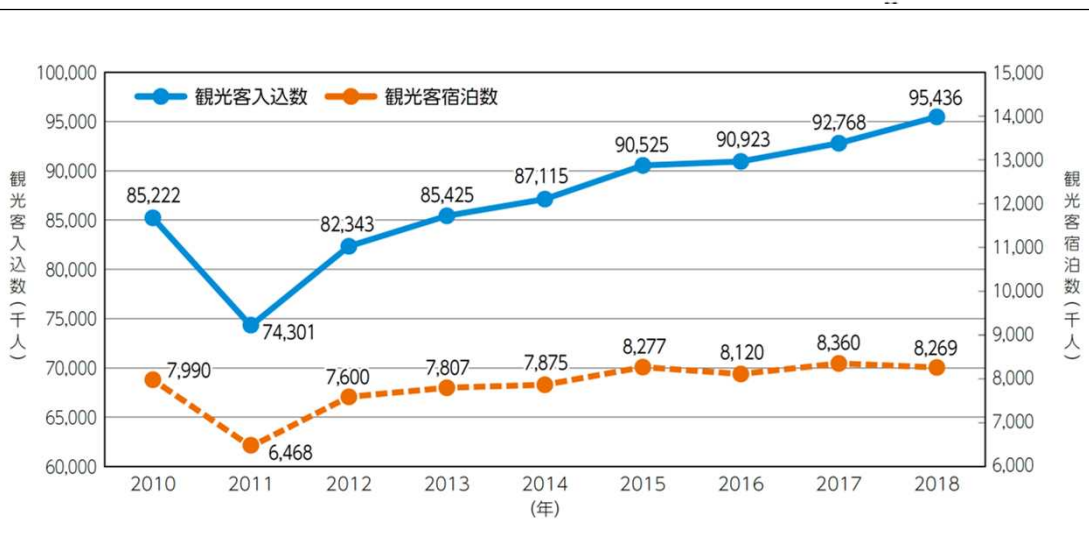


図 本県の観光客入込数・宿泊数の推移
[出典]栃木県観光交流課調べ

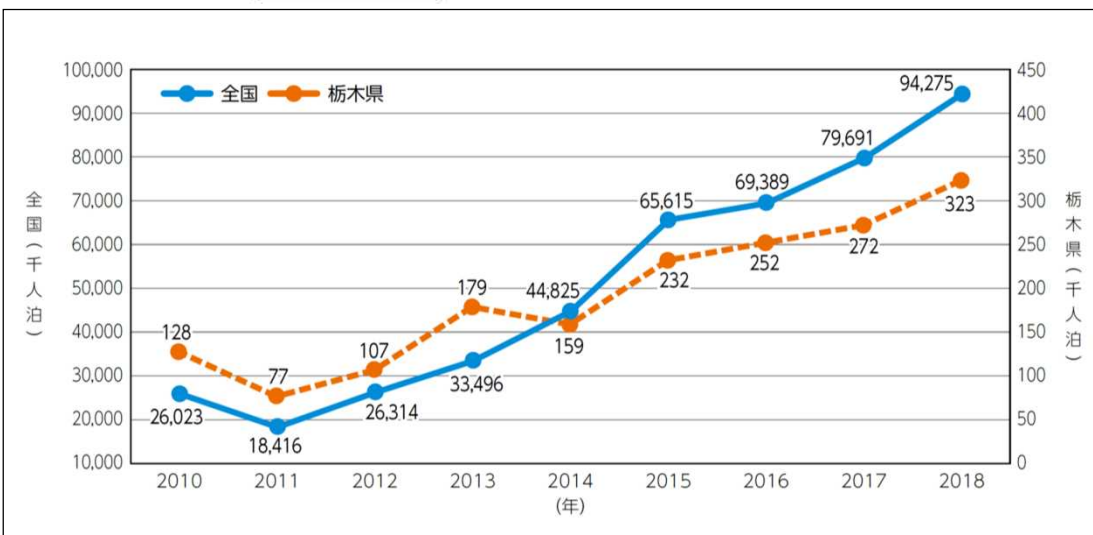


図 外国人延べ宿泊者数 (全国・栃木県)
[出典]観光庁

1-4 自転車を活用した観光づくり

自転車を活用した観光地域づくり(サイクルツーリズムの推進)は各地で進められており、しまなみ海道(広島県・愛媛県)は、その成功事例である。

観光客のニーズが「モノ消費」から体験型観光の「コト消費」へ変化し、滞在コンテンツの充実が求められている中、自転車は、爽快感・雰囲気や自然を肌で感じられ、徒歩とも自動車・公共交通とも異なるスケールで周辺環境の認識が可能であるため、国内外の観光客の来訪を促進できる可能性がある。

■しまなみ海道サイクリングロード(広島県・愛媛県)

多島美で知られる瀬戸内海の絶景をサイクリングしながら満喫できる延長約70kmのサイクリングロード

<サイクリングロードの様子>



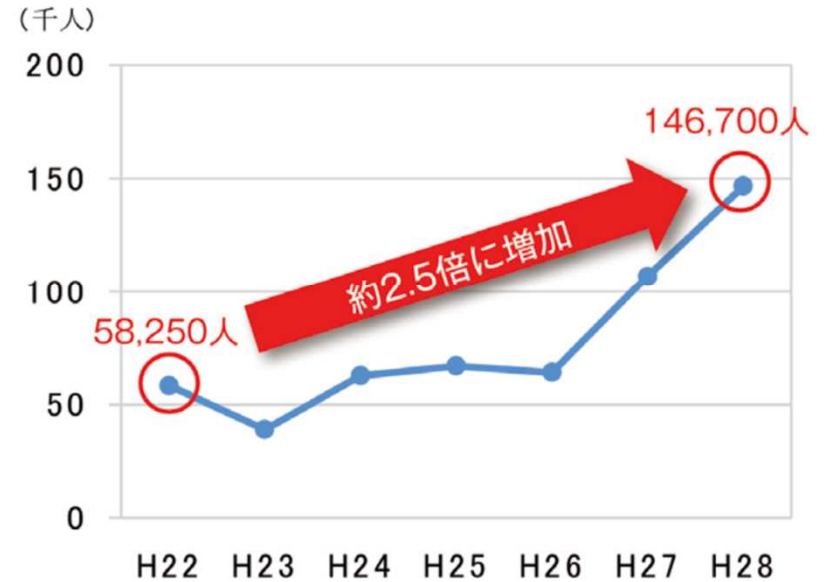
<宿泊施設>ONOMICHI U2

自転車を部屋に持ち込み可能な宿泊施設



【資料】ONOMICHI U2

▼外国人宿泊者数の推移(愛媛県)



【資料】宿泊旅行統計調査

図 しまなみ海道サイクリングロード(広島県・愛媛県)の例

[出典]国土交通省資料

1-5 サイクルツーリズムにおける課題

本県は、自転車関連イベントが多数開催されるとともに、平地と山地のバランスが良く変化に富んだサイクリングルート設定が可能であるなど、多くのサイクリストを惹きつける「自転車先進県」であるにもかかわらず、サイクリングのモデルルート、走行環境、利用環境の整備が不十分であるとともに、県内のサイクルツーリズム情報の一元的な発信ができていない。

ジャパンカップサイクルロードレース(宇都宮市)



鬼怒川サイクリングルート(宇都宮市)



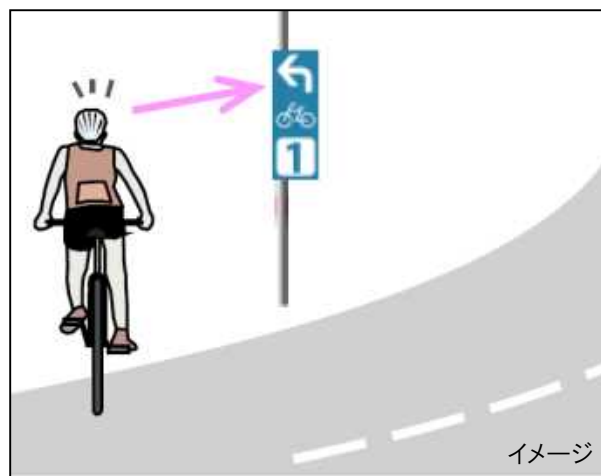
レンタサイクル(益子町)

<路面表示>



ナス1 実施事例

<案内看板>



イメージ

[出典]国土交通省資料

<サイクルスタンド> <ポンプ/工具の貸出>



イメージ

[出典]国土交通省資料

1-6 サイクルツーリズムの目標

令和2(2020)年3月に栃木県自転車活用推進計画を策定し、「自転車先進県とちぎ」のさらなる発展を目指し、その目標の一つが『サイクルツーリズムで成長する“とちぎ”』である。

自転車で地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ体験型・交流型旅行の促進や、各種自転車関連イベントの開催等を通じた観光地域づくりを推進し、自転車を活用した地域の活性化を図る。

そのため、自転車の走行環境、サイクリストの受入環境、サイクリングルート沿線の魅力づくりに取り組み、サイクリストの期待に応えるサイクリング環境(モデルルート)を創出する。



○サイクルツーリズムの推進

自転車を活用した観光地域づくり

本県の地域資源



自転車(サイクリング)

「走ってみたい」
サイクリングルート創出
(ハード)

- 走行環境整備【県・市町】
- サイクリスト受入環境整備
(ポンプ・工具の配置等)【市町】

「行ってみたい」
魅力づくり・発信
(ソフト)

- 情報の集約・一元的発信【県】
- 地域の魅力づくり【市町】
- サイクリスト支援
(ガイドボランティア育成等)【市町】

- モデルルートを通じたツアー・イベント等開催、各種取組【民間】

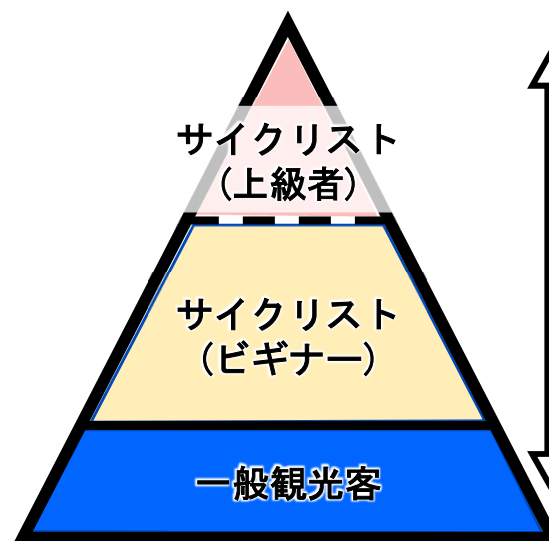
促進

滞在型観光

結果

観光消費額・国内外宿泊数の増加

○ターゲット層のイメージ



(長距離、高低差大)
・ヒルクライムレース等

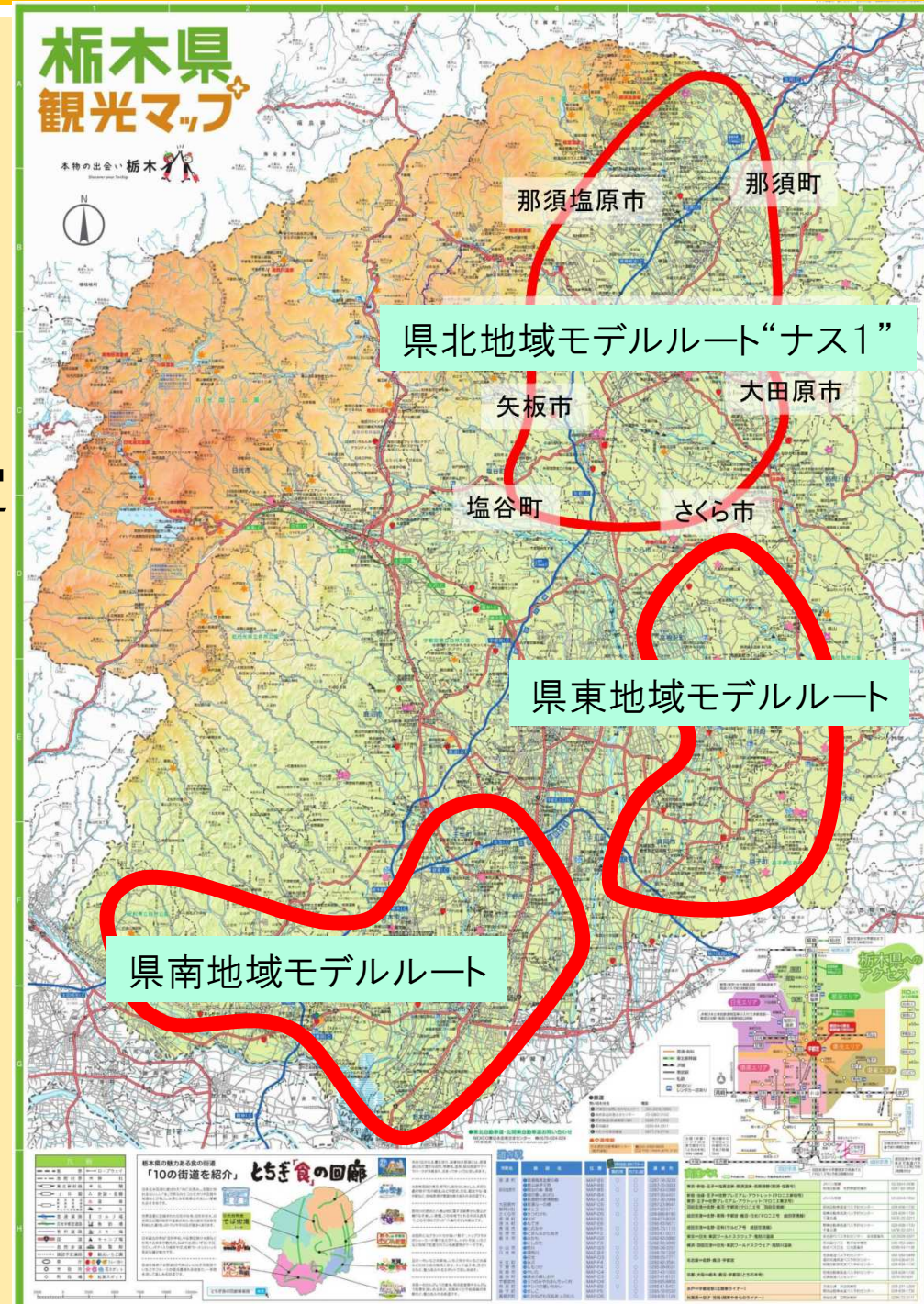
・ロングライド等

(短距離、平坦)
・ポタリング等

⇒ 本県のサイクルツーリズムは、
全階層がターゲット

1-7 本県のモデルルート(案)

- 県全域、全市町を網羅
- 令和2年度は県北地域“ナス1”を設定
- 令和3年度は県東・県南地域を設定
- 令和4年度以降は残りの地域を順次設定
- 1ルート約100km以上で設定
- ルートごとに地域の特性を活かしたサイクルツーリズム促進のための取組を推進



1-8 県東地域 モデルルート(案)

(1) 全体

- 通過市町は、全12市町
 - 1)宇都宮市、2)真岡市、
 - 3)さくら市、4)那須烏山市
 - 5)下野市、6)上三川町
 - 7)益子町、8)茂木町
 - 9)市貝町、10)芳賀町
 - 11)高根沢町、12)那珂川町

- 全延長約 $178+16=194$ km程度
- 最大標高は約198m (那須いなか村オートキャンプ場周辺)
- 最小標高は約 37m (大藤橋周辺)

- 北部にはJR烏山線-烏山駅、南部には真岡鐵道-真岡駅が位置している

- 北部から東部のエリアは、那珂川や田園の風景、城跡等の歴史や文化が魅力

- 西部から南部のエリアは、鬼怒川や温泉、公園緑地などレジャー施設が点在



1-9 県東地域モデルルート(案)のコンセプト①

(2) 北部エリア

- 那珂川や八溝山系の里山など自然豊かなエリア
- 温泉やグランピング施設など、レジャー施設も豊富
- 鎌倉山周辺など高低差のあるルートを持つ



山あげ祭 (那須烏山市)



鎌倉山 (茂木町)



元気あつぷ村 (高根沢町)



馬頭温泉郷 (那珂川町)



1-9 県東地域モデルルート(案)のコンセプト②

(3) 南部エリア

- 比較的平坦で田園風景の広がるエリア
- グランピング施設、カフェなどが点在
- 鬼怒川サイクリングロード、レンタサイクルなどの自転車利用環境◎



ツインリンクもてぎ (茂木町)



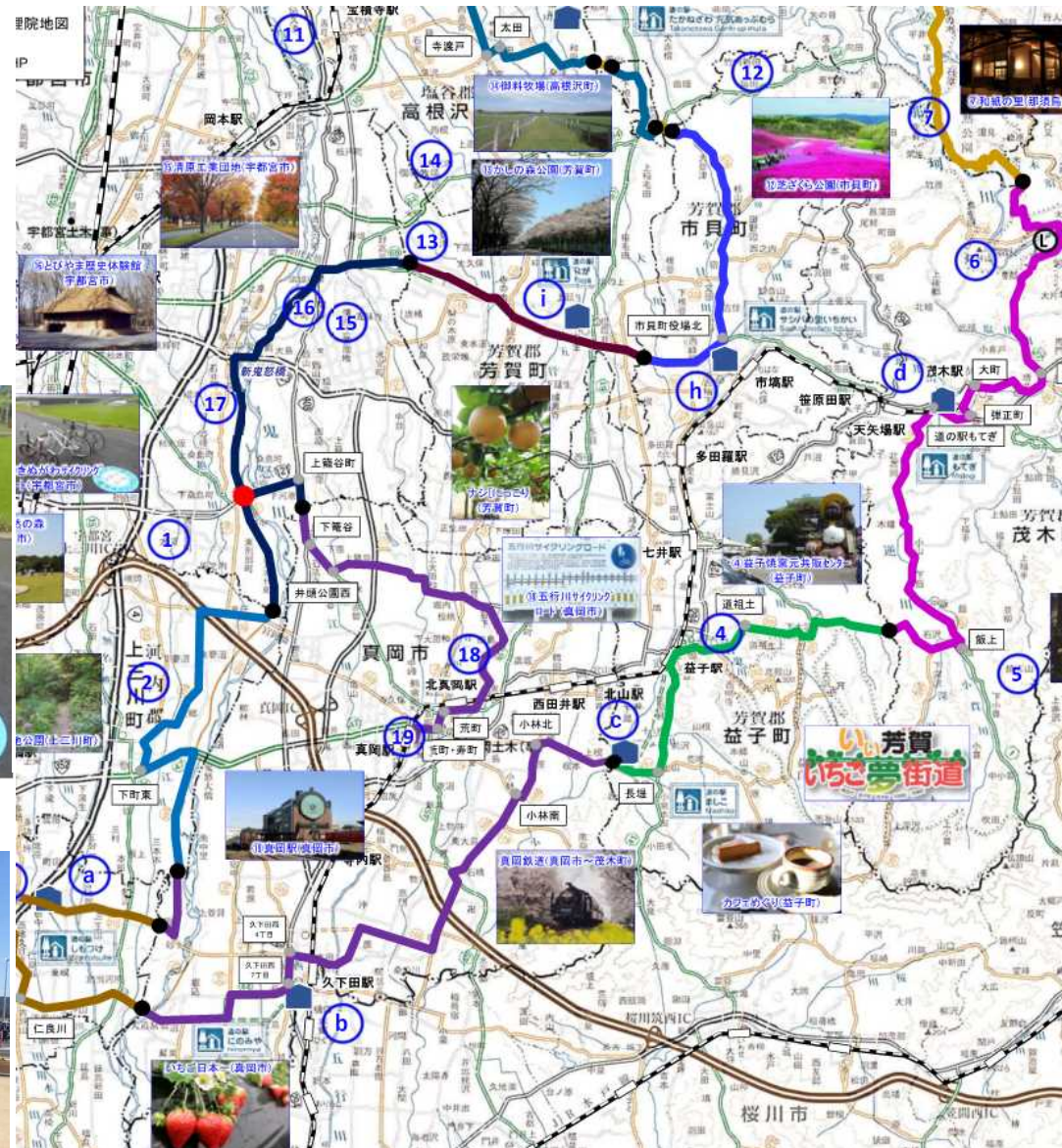
鬼怒川サイクリングロード (宇都宮市)



真岡鐵道 (真岡市)



レンタサイクル (益子町)



1-10 県南地域モデルルート(案)

(1) 全体

○通過市町は、全8市町

1)足利市、2)栃木市、3)佐野市、4)鹿沼市、5)小山市、6)下野市、7)壬生町、8)野木町

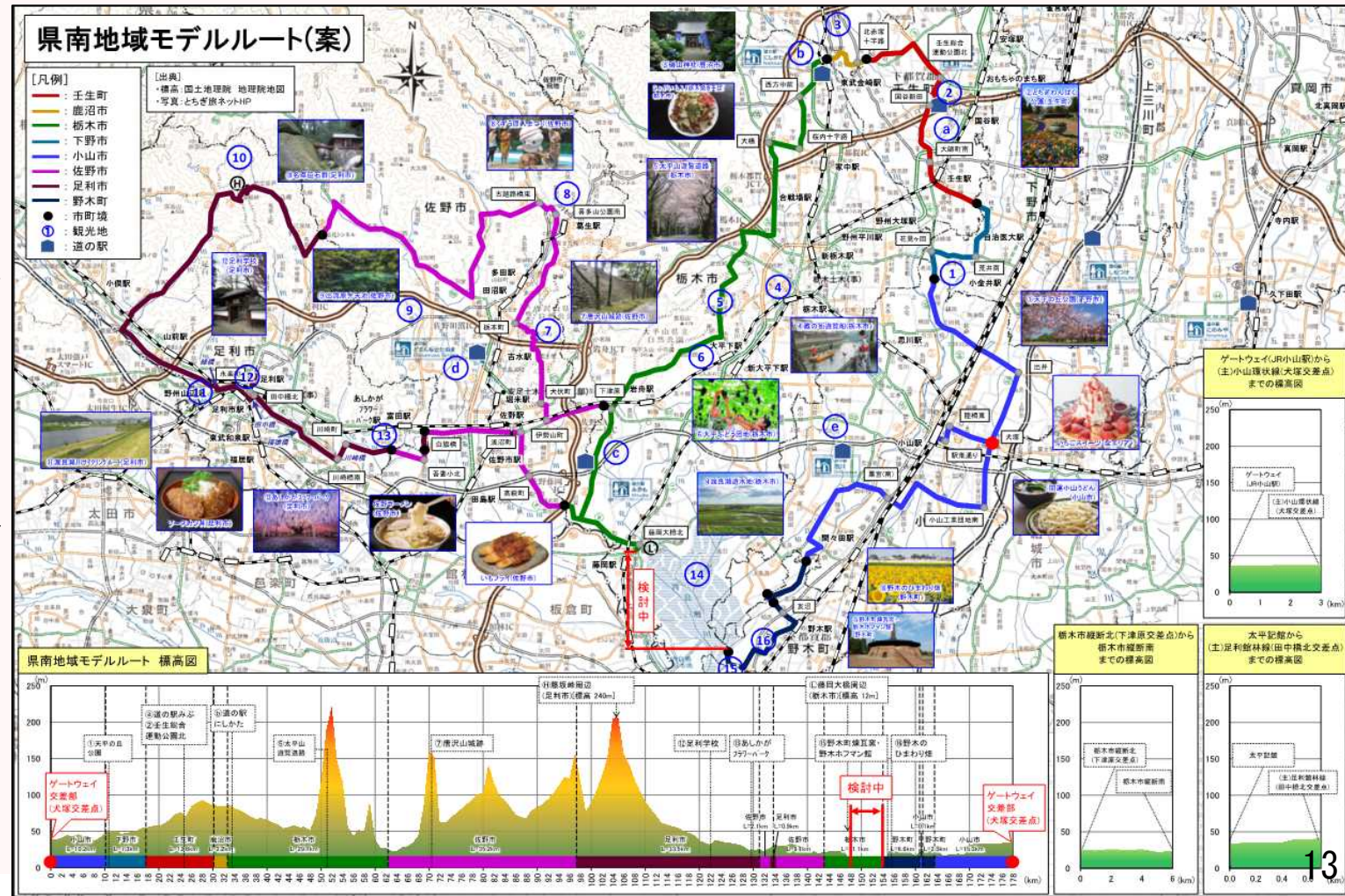
○全延長約178+10=188km程度で設定

最大標高は約240m(藤阪峠周辺)、最小標高は約12m(藤岡大橋周辺)

○東西南北に鉄道、高速道路が通り、アクセス性に優れている

○南西部には渡良瀬川サイクリングロードが整備

○足利学校や煉瓦窯、蔵の街並みなど文化施設が豊富



1-11 県南地域モデルルート(案)のコンセプト①

(1) 東部エリア

- 比較的平坦で田園風景の広がるエリア
- アップダウンのある大平山～ぶどう団地
- 鉄道各線が全域に広がる



ぶどう団地(栃木市)



ひまわり畑 (野木町)



天平の丘公園(下野市)



渡良瀬遊水地(栃木市)

栃木市縦断北(下津原
栃木市縦断
までのルート)

1-11 県南地域モデルルート(案)のコンセプト②

(2) 西部エリア

○峠や河川、街中などを通過する、多様な性質を持つエリア

○アップダウンのある唐沢山、藤阪峠周辺

○足利学校、あしかがフラワーパーク、佐野らーめんなど文化・観光資源が豊富



佐野らーめん (佐野市)



唐沢山(佐野市)



あしかがフラワーパーク(足利市)



足利学校(足利市)

2 今後の進め方(案)について

2-1 今後の進め方(案)

○令和3(2021)年9月10日(本日)

第1回 県東地域・県南地域サイクルツーリズム推進協議会

内容：モデルルート(案)の提示



○令和3(2021)年9月～10月

内容：モデルルート(案)の試走



○令和3(2021)年11月

第2回 県東地域・県南地域サイクルツーリズム推進協議会

内容：・モデルルートの決定
・モデルルート名称(案)の提示



○令和4(2022)年1月

第3回 県東地域・県南地域サイクルツーリズム推進協議会

内容：・モデルルート名称の決定
・活用の仕方の検討

(以後、順次整備開始)

(参考 ナス1) 走行環境整備(路面表示・案内看板)

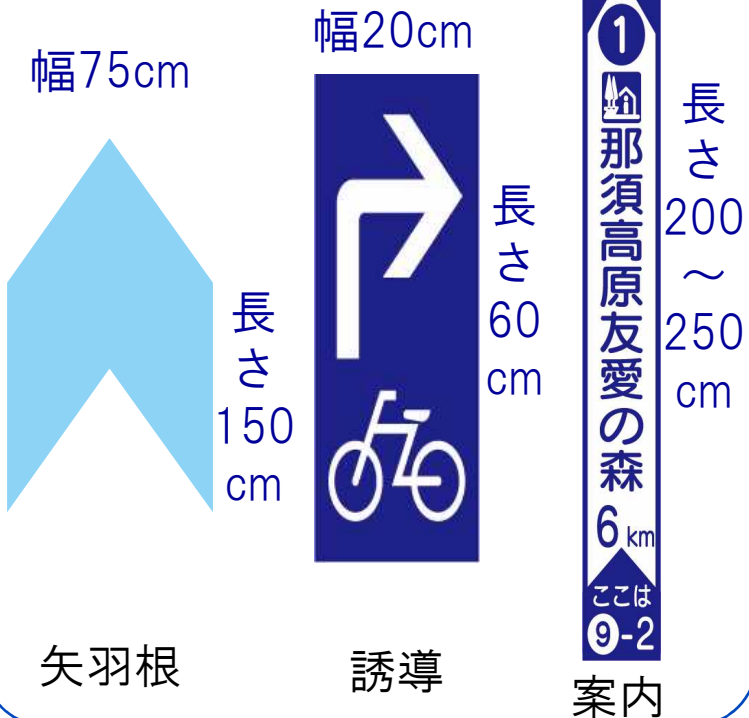
【前回協議会決定事項】

- モデルルートにおける走行環境整備は、路面表示と案内看板とする。
- 路面表示は、矢羽根、誘導、案内の3種類。案内看板は、誘導、案内の2種類。

【進捗状況】

- 路面表示:外周部117kmは、9月末に整備完了予定。
その他は関係機関(公安委員会等)と協議完了。今後整備予定。
- 案内看板:現在、工場製作中であり、10月末に設置完了予定。

路面表示



案内看板



ナショナルサイクルルートの基準を参考

【矢羽根】

- ・単路部・・・100m間隔
- ・分岐部・・・200m,150m,100m,50m,30m,20m,10m地点に設置

【誘導】

- ・右左折の交差点部に設置
- ・自転車マークはJIS規格

【案内】

- ・約5km間隔で設置

〔表示内容〕

- ・主要地点名 例「那須高原友愛の森」
道の駅や鉄道駅、公園など11箇所
- ・主要地点までの距離
- ・現在地 例「㊟-2」

(参考 ナス1) 1-3 走行環境整備(路面表示)



(参考 ナス1) 1-4 利用環境整備

【前回協議会決定事項】

- 県内には、「道の駅」が20市町25箇所ある中で、サイクルラック、空気入れ、メンテナンス工具が未整備の「道の駅」については、新規に設置する。また、整備済みの「道の駅」についても補充する。
- 設置内容は、サイクルラック:3基、空気入れ:マルチタイプ式、メンテナンス工具:一式とする。

【進捗状況】

- 「道の駅」に整備・補充するサイクルラックについては、道の駅内の統一が図られるよう、今後、施設管理者と協議・調整の上、設置予定。

「道の駅」の利用環境整備状況

「道の駅」
県内25市町25箇所

【サイクルラック】

- | | |
|---------------------|-------------|
| ・整備済み(3基以上) | 6箇所 |
| ・ <u>整備済み(2基以下)</u> | <u>17箇所</u> |
| ・ <u>未整備</u> | <u>2箇所</u> |
- 上記整備済みのうち
木製のみ:9箇所、金属(アルミ等):11箇所、
その両方:3箇所

【空気入れ】

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ・整備済み(マルチタイプ) | 3箇所 |
| ・ <u>整備済み(2タイプ以下)</u> | <u>12箇所</u> |
| ・ <u>未整備</u> | <u>10箇所</u> |

【メンテナンス工具】

- | | |
|--------------|-------------|
| ・整備済み | 7箇所 |
| ・ <u>未整備</u> | <u>18箇所</u> |

サイクルラック等

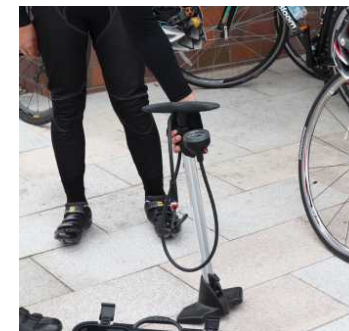


▲サイクルラック



▲メンテナンス工具

▼空気入れ



▼バルブの種類



英式バルブ

仏式バルブ

米式バルブ

一般的な自転車

ロードバイク

マウンテンバイク